

大学生が考える「働くとはどういうことか」(2) －学年ごとの特徴を探るテキストマイニング－

加藤里美

I. 緒言

「ニート」という言葉が一般化し、「働いたら負けかなと思っている」という名(迷)台詞まで登場した2004年あたりは、そのようなY世代(ミレニアル世代)¹⁾の価値観が世間の耳目を集めた。その後登場したZ世代は、東日本大震災をはじめとした各地での大雨や地震による未曾有の災害を経験し、経済の低迷を表現する「失われた30年」の中で育ってきた。Z世代の後半組が、現在の高校生と大学生である。

上述したような社会的な出来事を経験し、それらから影響を受けながら、働くことについての考えを形成してきたZ世代の考え方はどのようなものなのだろうか。賃金の上まらない現状に、さまざまな副業に取り組んでいる若者や、海外でのワーキングホリデーや船職人として活躍し高額な収入を得ている若者がマスコミで取り上げられている。そのいっぽうで、金銭的なことよりもやりがい重視して社会課題に取り組む若者の姿も話題となっている。就活となると、完全週休二日制、有給取得は当たり前、残業はしたくないといった自由な時間を謳歌したい若者の存在感もある。

本稿の目的は、Z世代後半である現在の大学生が働くということをどのように考えているのかを明らかにしていくことである。勤労観や職業観の育成は、学生が就職をするにあたり、人生においてどういう仕事人生を積み重ねていくかを考えていくことに繋がっていく重要な視点となる。教員は学生の勤労観や職業観を踏まえて、その育成、具体的には以降のキャリア科目の展開ならびに就職活動への支援に繋げていくことができると考えられる。

調査対象者は、愛知工業大学・経営学部経営情報システム専攻の3年生であ

¹⁾ Y世代は米国で生まれた言葉で、1960年から1974年生まれをX世代、1975から1990年代前半生まれをY世代と定義した。この流れから1990年後半から2000年生まれがZ世代と名付けられた。ちなみに「ミレニアル世代」とはY世代の事を指す。

る。「あなたにとって働くとはどういうことか」として自由に考えを書いてもらった。それらの自由記述について計量テキスト分析を行うことで、大学生が働くということをどのようにとらえているのかを示していくが、本稿ではまず加藤(2022)における前年度の学生と比較することで、学年ごとの特徴を明らかにしていく。

Ⅱ. 先行研究

(1) 働くとはどういうことか

加藤(2022)によれば、大学生が働くことの意味をどのように捉えているのか、またキャリア教育科目は働くことの意味をどのように伝えているのか、その内容は適切なのかを検討した安藤(2017)は、キャリア科目10冊のテキストの記述からそれらを探り、以下の二つの特徴を明らかにした。テキストでは働くことの意味をとらえる多様な観点については説明されているが、中核的な意味自体は明示せず、その発見を学生自身に委ねている。また、働くことの意味を明示している一部のテキストでは、著者の信念や一般常識的解釈を示しているだけに過ぎない。すなわち、キャリア教育のテキストにおける「働くことの意味」については、どのテキストも概念構造の中核は不明ということになる。このことは、学生が主体的に考えていくことが重要ということを示している。また、キャリア科目の指導に当たっては、学生の労働のプレイ化(過剰な自己実現)に繋がっていく「好きなことや自分のやりたいことを仕事に結び付けて考える傾向」である「やりたいこと志向」(安達, 2004)を念頭において指導していく必要があることも明らかにした。

これらのことから「働くとはどういうことか」に関しては、世間一般で言われることの羅列や規範を説くことだけでなく、労働のプレイ化をも取り込んだ上で、教員自身が働くことの本質的で包括的な考えを持つことが必要なことと考えられる。そのためにも学生が主体的に考えている「働くこととはどういうことか」について、彼/彼女らの考えを踏まえておくことは最も肝心なことである。

加藤(2022)の2021年卒生を対象とした「働くこととはどういうことか」の結果からは、学生は現実的で、働くことが生きていく上で必要なこととの認識を持っていることが明らかとなった。またそれにより「人生を豊かにしたい」等、仕事

を通して得られることにも考えが及んでおり、多くの学生が働くことにおける「人間関係の重要性」にも気がついていることが示された。

(2) Z世代の働き方と仕事への価値観

Z世代の特徴に関しては、多種多様な調査や研究が進められている。2023年3月8日時点において、CiNiiで「Z世代」を検索すると、252件出てくる。その多くがZ世代のそれまでとは異なる価値観に関する文献である。

Z世代の特徴としてよくあげられるのが、Z世代が他の世代よりも社会貢献意欲が高い点である。Z世代の3割が「社会に貢献したい」と主張しており、古着のアップサイクル²⁾への注目などを含め(日経MJ, 2022, 1. 1)、エシカル消費³⁾への関心や認知が他の世代よりも高い(電通, 2022)。このようなZ世代の就職活動に関しては、何か特徴があるのだろうか。通説としては、Z世代はワークライフバランスを重要視すると言われている(デポール&ソーニー, 2022)。自分の生活を大事にすることが仕事にも繋がり、仕事の充実感が生活にも繋がると考えているということになる。

上述のことから考えていくと、就活の時にも特徴が出ているかもしれない。

表1には、理想とする「将来の自分」像に最も近いものを示した。これは「23年卒 大学生のライフスタイル調査」(マイナビ キャリアリサーチLabのホームページ)によりZ世代の働き方と仕事への価値観を示したものである。

表1 理想とする「将来の自分」像に最も近いもの

	19年卒	20年卒	21年卒	22年卒	23年卒
回答数	4,640	4,656	4,850	3,938	3,756
起業して社長になって成功を取める〈野望〉	3.2%	3.4%	4.0%	3.5%	3.4%
自分の店(ペンションなど含む)を持つ〈野望〉	1.2%	1.9%	1.9%	1.7%	1.5%
新卒で就職した会社で出世して社長・役員になる〈出世〉	8.6%	7.9%	8.2%	7.5%	8.0%
世界的に有名なクリエイター・アスリートになる〈野望〉	1.7%	1.2%	1.3%	1.0%	1.5%
歴史に残るような研究成果を取める〈野望〉	1.5%	1.3%	1.5%	1.0%	1.6%
一生食べていける安定した仕事を持つ〈安定〉	20.3%	19.9%	19.8%	20.8%	23.8%
自分の好きな仕事を一生続ける〈安定〉	16.2%	15.8%	16.5%	16.7%	16.2%

2) アップサイクルとは、生地を染め直したり、繋げ合わせたりする古着のことである。

3) エシカル消費とは、社会問題解決に関わるような消費行動である(電通, 2022)。

愛する人と結婚して子供ができ幸せに暮らす〈安定〉	31.5%	32.5%	31.2%	29.9%	24.7%
大金持ちと結婚して裕福な生活をする〈他力〉	0.7%	0.8%	1.0%	0.8%	0.9%
宝くじを当てて遊んで暮らす〈他力〉	0.9%	1.3%	1.1%	0.8%	1.3%
自由気ままに世界中を旅して回る〈自由〉	2.8%	2.6%	2.6%	2.7%	2.6%
海外の一番好きな土地に家を建てて住む〈自由〉	1.3%	1.7%	1.3%	1.5%	1.0%
大自然に囲まれて自給自足で暮らす〈自由〉	0.6%	0.5%	0.6%	1.2%	1.1%
故郷に住んで一生のんびり暮らす〈自由〉	1.3%	1.1%	1.2%	1.4%	1.9%
家で自分の好きなことだけをして暮らす〈自由〉	3.3%	3.3%	3.5%	4.3%	4.6%
若くして成功を取め惜しまれて早世する〈野望〉	0.7%	1.0%	0.4%	0.9%	0.9%
理想とする「将来の自分」像は存在しない〈なし〉	4.2%	4.0%	3.9%	4.3%	5.0%

出所:マイナビ キャリアリサーチLabのホームページ

表1からは、「愛する人と結婚して子供ができ幸せに暮らす」、「一生食べていける安定した仕事を持つ」、「自分の好きな仕事を一生続ける」が上位3位までを占める結果が続いている。これらは「安定」を表す内容であり、会社における昇進や社会的地位を求める「出世」よりも重要視している点が特徴である。ここでは自分の生活の充実が仕事にも繋がるというワークライフバランスを重視している結果であると考えることができる。表2には、人生において優先度の高いもの(上位二つ)を示した。

表2 人生において優先度の高いもの(上位二つ)

	17年卒	18年卒	19年卒	20年卒	21年卒	22年卒	23年卒
回答数	3,350	3,924	4,640	4,656	4,849	3,938	3,756
仕事	31.8%	24.4%	24.4%	19.8%	20.7%	19.2%	17.0%
家族	54.2%	43.0%	45.2%	44.6%	41.4%	47.3%	44.8%
友情	19.4%	23.9%	24.1%	26.2%	27.6%	26.7%	24.5%
恋愛	13.3%	17.1%	14.2%	15.6%	17.5%	14.2%	11.0%
自分	22.0%	27.8%	25.9%	26.8%	28.0%	30.1%	32.9%
プライド	1.9%	2.2%	2.1%	1.9%	1.3%	0.9%	1.4%
周りの評価	3.4%	3.8%	4.7%	3.4%	3.0%	3.8%	3.2%
お金	18.4%	21.0%	22.0%	24.8%	23.0%	21.5%	22.2%
趣味	22.9%	22.4%	22.0%	21.4%	23.3%	22.5%	28.0%
遊び・息抜き	12.7%	14.4%	15.4%	15.5%	14.2%	13.7%	14.9%

出所:マイナビ キャリアリサーチLabのホームページ

表2からは、一貫して「家族」の優先度が高く、「仕事」の優先度が減少していることが明らかである。「自分」や「趣味」が増加していることから、自分や自分の時間を大切にするという価値観をもっていることが示された。ここからも自分の生活の充実が仕事の充実にも繋がるというワークライフバランスを意識した結果が出ていると言えよう。ただワークライフバランスは仕事の充実が自分の生活の充実にも繋がっていくことでもあるが、その点に関して学生の段階で意識するのは難しいことなのかもしれない。

Ⅲ. 方 法

調査方法は、経営学科経営情報システム専攻の3年生(2022年度卒)が受講するキャリア科目の2回目の授業において、「あなたにとって働くとはどういうことか」として自由に考えを書いてもらった⁴⁾。調査対象者は92名(男子学生76人、女子学生16人)である⁵⁾。

分析方法は、92名の自由記述をテキストマイニングのKH Coderに取り込み、共起ネットワークにおいて、加藤(2022)における調査対象者81名(男子学生73名、女子学生8名)も合わせて計量テキスト分析を行う。さらに2021年度卒と2022年度卒との比較を行う。

Ⅳ. 調査結果

本稿では、2021年度卒と2022年度卒の学生による「あなたにとって働くこととは」の自由記述の文章(79,628単語/重複含む)から組織名、人名、副詞や助動詞などを除く23,705単語を抽出して分析対象とした。最初に、KH Coderの共起ネットワークを用いて、単語同士の繋がりの強さによりコミュニティに分けた。図1には、2021年卒学生と2022卒学生を合わせた173人の共起ネットワークを示した。

4) 2021年度卒と同様である。働くことをどのように考えているのかについて、体験等があればそれを含めて800字程度でと指示を出した(加藤, 2022参照)。

5) 加藤(2022)同様に、記述内容の分析を大学院紀要に投稿すること、個人内容が出ないことの説明もしてある。

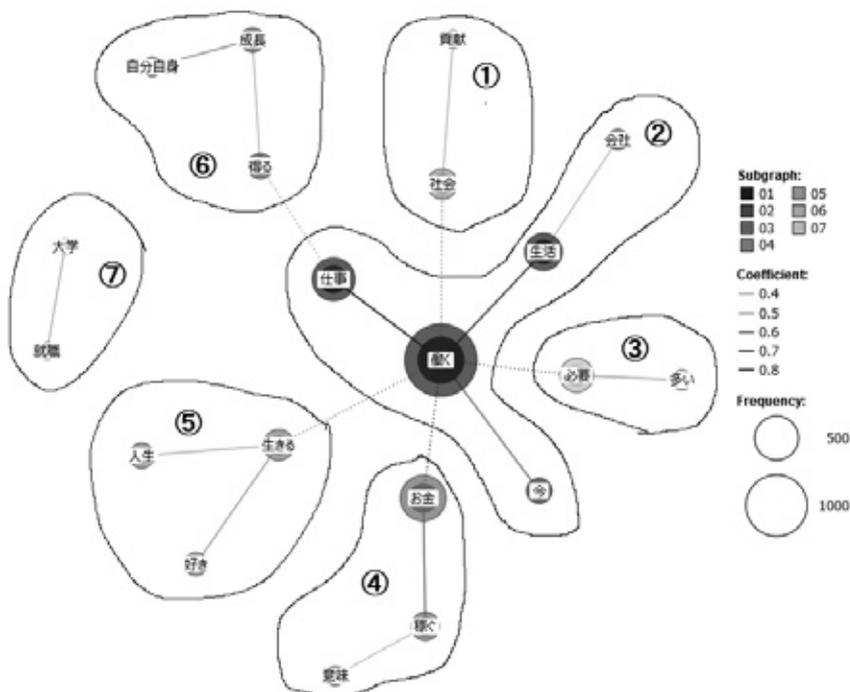


図1 2021年卒学生と2022卒学生を合わせた173人の共起ネットワーク

注)集計単位は「段落(一人の意見が一段落)」 最少スパニングツリーだけを描写

図1からは以下の七つのコミュニティに分かれることがわかる。⑦以外は、「働く」に繋がっている。①社会に貢献すること、②仕事をして生活をしていくこと、③お金や必要なことのため、④お金を稼ぐこと、⑤人生を充実させる、⑥自分自身を成長させる、⑦大学で学び就職する、である。

図2では、2021年卒学生と2022卒学生の比較の共起ネットワークを示した。表1には、2021年卒と2022年卒の特徴語⁶⁾を示した。

6) 特徴語は各分類の記述を特徴づける目的で抽出される。高い確率で出現している。

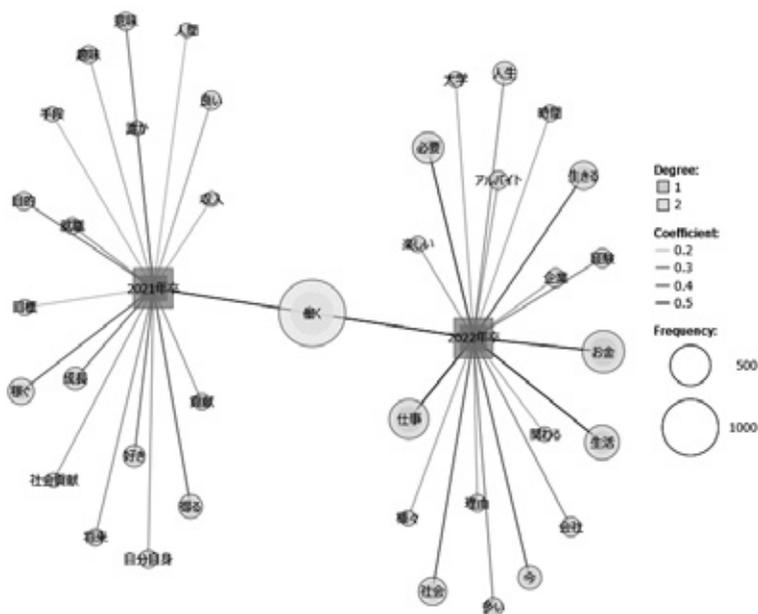


図2 2021年卒学生と2022卒学生の比較の共起ネットワーク

注)「段落(一人の意見が一段落)」 最少スパニングツリーだけを描写

表1 2021年卒と2022年卒の特徴語

2021年度卒		2022年度卒	
働く	.471	仕事	.497
得る	.353	お金	.487
社会	.349	生活	.482
稼ぐ	.339	必要	.434
好き	.321	生きる	.382
成長	.317	今	.371
目的	.304	経験	.278
意味	.297	会社	.272
多い	.270	人生	.263
将来	.255	アルバイト	.239

図2からは、2021年度卒と2022年度卒のキーワードが「働く」であることがわかる。2021年度卒は、「社会」との関わりや「社会貢献」、働くことで得られることに特徴があるが、2022年度卒では、「働く」=「仕事」、すなわち仕事をして働くであり、「社会」との関連よりは、「生活」であったり「お金」であったりに関連している。

VI. まとめと考察

本稿では、まず2021年度卒と2022年度卒をまとめて計量テキスト分析を行った。その結果、「働く」を中心に働くことと働くことで得られる内容に繋がっていることがはっきり示された。これらの結果は、働くことと、働くことに関するものに、全体的に安定的な考え方であることを示している。出現語を見ても、出世や野望に関連する用語や自由気ままな考え方も皆無に等しい。こういったところは、本校の学生の特徴なのかもしれない。

Z世代は他の世代よりも社会貢献意欲が高いという先行調査の結果があるが、本稿の結果でも2021年度卒に社会貢献意識が示された。働くことは社会に貢献することであると、社会との関わりへの意識もある。表現は異なるが、2022年度卒においても社会との関わりは意識されている。2021年度卒と2022年度卒の全体としては、概ね生きていくために働いていくという意識であり、現実的な結果であるといえよう。

VII. 結 言

2022年9月、岸田文雄首相がNY証券取引所において、日本企業にジョブ型の職務給中心の給与体系への移行を促す指針を2023年春までに官民で策定することを明らかにした。これ以降、大学生の就活においてもジョブ型雇用が意識され始めた。このジョブ型が欧米型なのか、それとも日本型のジョブ型なのか、現時点ではその具体的内容の検討がつかない。しかし、新卒一括採用を前提とするメンバーシップ型雇用でなくなるとすると、学生自身が社会状況を把握した上で、自身のキャリアに関する考えが出てくるのではないと思われる。それにより、学生が大学に求めるものもこれまでとは大きく異なってくるであろう。

う。大学における教育を考える上でも、大学生の意識を掴んでいくことが重要な意味を持つと考えられる。

《引用参考文献》

- 安達智子(2004)「大学生のキャリア選択—その心理的背景と支援」『日本労働研究雑誌』533, 27-37.
- 安藤りか(2017)「大学のキャリア教育科目における「働くことの意味」の検討:テキストの記述を手がかりに」『名古屋学院大学論集 社会科学篇』54巻1号, 65-80.
- 電通(2022)「エシカル消費 意識調査2022を実施」
<https://www.dentsu.co.jp/news/release/2022/0620-010527.html>(2023年3月7日閲覧)
- 加藤里美(2022)「大学生が考える「働くとはどういうことか」—テキストマイニングによる探索的研究—」愛知工業大学経営情報科学学会『経営情報科学』第16巻2号, 26-36.
- マイナビ(キャリアリサーチLab)
https://career-research.mynavi.jp/column/20220407_25603/(2023年3月1日閲覧)
- デポール, クリスティ&ソーニー, バスندگان(2022)「世代にまつわる偏見がなくなる理由」『Diamond ハーバードビジネスレビュー』47(9), 54-62.